



※一般質問の内容は議員自身が6月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和5年6月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。

※部長名は、字数の関係上「部長」で統一して表記しています。



さいとう かずふみ

齋藤 和文

(公明会)

高齢者及び障がいのある方が直面する情報格差の解消について

問 高齢者及び障がい者への具体的な避難情報等の対応について。

部長 同報無線や防災ラジオ、LINEやメール登録者への配信、音声自動サービスにて確認できる。テレビにてデータ放送、防災アプリでも確認が可能となっている。

問 特に高齢者や障がいのある方は、情報格差を解消できない(情報を得られない)が、対策は。

部長 個別の対応については、保健福祉部とも動いていく。どのように情報を伝えていくのが課題であり、要支援者の対応に繋がっていく。

市長 今後福祉サイドから、個人や団体に対して、情報を得にくい方々へは市で対応します、と声をかけて対応を強化し、富士宮市の優しさ

と思いやりのある行政につなげてまいりたい。

今後の富士登山のあり方について

問 近年の登山者数の推移について。

部長 富士宮ルートでは平成25年7.7万人がピークで、コロナ禍もあり、令和4年は4.2万人。5年は国内外から多くの登山者を見込む。

問 弾丸登山等の対応について。

市長 新型コロナウイルスが5類に移行され行動制限のない登山シーズンを迎えた。訪日外国人の旅行者も増加することから、コロナ禍前を超える水準になると予想している。すでに山小屋は多くの予約が入っており、受入れが厳しくなっている。そうしたことが夜通しでの一気に登頂を目指すことに繋がり、安全を脅かしている。今後も県を中心とした、安全対策の会議で、安全対策や弾丸登山防止の周知啓発に取り組んでいく。

問 今後の登山のあり方について。

市長 今後登山者の平準化を目指し、県や他市、事業者とも連携を図り富士山を守っていきたい。



むらせ hitoshi

村瀬 旬

(至誠)

富士宮市立病院の看護師が助産師の資格を取得することによる分娩の盤石な体制について

問 富士宮市内で分娩を取り扱う産婦人科の開業医院はなく、また市立病院において助産師の募集を行っても応募者が思うように集まらない。そこで、看護師に助産師の資格を取ってもらい対応する事業を始めているが、これについて、対象者はどのような人か、また人数はどのくらいであるか。

部長 妊婦さんの健康管理、分娩、出産、育児指導と人の誕生に関わる一連の流れを管理、指導する重要な役割を担っており、対象の要件は助産師養成学校に合格した方、勤務成績が優秀である方、引き続き市立病院に勤務することが確実な方。人数としては現在、正規職員10名、再任用職員及び会計年度職員5人体制であるが正

規職員16名となるように確保していきたい。

意見 富士宮市での開業医院がなく心配している市民もいるが、現在も問題はなく、安心して市立病院を利用していきたい。

猫の適正管理推進モデル事業について

問 富士宮市として、飼い主のいない猫の去勢、避妊手術の助成金制度ができ久しいが、モデル地区の決定はどのようにして行われるのか。

部長 自治会、ボランティア、市とで連携している事業であり、自治会の苦情やボランティアからの調査により、市が決定するものである。

問 捕獲はどのようにして行われているか。

部長 ボランティアの方々が自身で捕獲器をもっており、また、市としても2週間を期限として無料で貸し出している。捕獲後は獣医師によって、去勢、避妊手術を行う。このことによって飼い主のいない猫が年々減少している。

問 屋外で飼い主のいない猫への餌やりの苦情。

部長 職員がその家に出向き、外ではなく室内で飼育してもらうようお願いをしている。